

What's on, Kyodokodo

2010.10.15
No.33



CONTENTS

共同行動からのお知らせ

- マイページから基礎データに関する現状評価の入力をお願いいたします
- 医療安全全国フォーラムで貴病院の取り組みを紹介ください!
- 医療安全全国フォーラム-11月26日(金)・27日(土)-に参加しよう!
- WHO「安全な手術のためのガイドライン」のご案内
- 医療安全の今とこれからの全貌を把握できる国際フォーラムに参加しませんか?

フォーラム・セミナー等のご案内

ひとことアドバイス

- 危険薬の誤投与防止(目標1)
- 急変時の迅速対応(目標6)

フォーラム・セミナー等のご報告

- 第12回フォーラム「医療の改善活動」全国大会 in 名古屋が開催されました

- 成功事例・参考事例を募集しています
→ <http://kyodokodo.jp/> トピックス内
- 質問・提案をお寄せください → advice@ppscamp.net
- 標準化病院死亡比(HSMR)を算出してお知らせします
→ <http://kyodokodo.jp/hsmr.html>
お問い合わせは toHSMR@ppscamp.net
- 参加登録病院用のバナーができました!
→ [パートナーズ専用ページ/トップページ](#)
- 参加登録方法に関するQ&A → <http://kyodokodo.jp/faq.html>
参加登録事項変更等に関するQ&A
→ [パートナーズ専用ページ/Q&A](#)
- キャンペーンポスターをご利用ください
完成版 → http://kyodokodo.jp/shiryoku_koho.html
基本デザイン → [パートナーズ専用ページ/メニュー](#)

共同行動からのお知らせ

マイページから基礎データに関する現状評価の入力をお願いいたします

- ① 基礎データの再入力: 「施設概要/入院死亡数/安全対策等実施度」の現状
- ② 登録した行動目標に関する取り組み内容とこれまでの成果の要旨(目標別)

ご多用のところ恐縮ですが、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

貴院の<マイページ>への入り方がわからない方は、下記までお問い合わせください。

共同行動支援事務局 shienjimu@kyodokodo.jp (電話: 022-717-8196)

医療安全全国フォーラムで貴病院の取り組みを紹介ください!

ポスター展示および目標別セッション(26日14:00~15:30)で発表と質疑を行います

- ・ 10月18日(月)までにお申し込みください。
- ・ 発表申し込みと抄録作成要領、ポスター発表要領は、全国フォーラムのホームページ

<http://forum2010.ppsqsh.net/> をご覧ください。

お問い合わせ、および抄録送付先 forum2010@ppsqs.net

医療安全全国フォーラム-11月26(金)・27日(土)-に参加しよう!

- ① ホームページをご覧ください → <http://forum2010.ppsqs.net/>

- ・ ホームページから参加登録をお願いいたします。

当日の受け付けも可能ですが、**セミナーセッション**は定員に達し次第締め切らせていただきますので、お早めにお申し込みください。

■ セミナーセッション (セミナー受講証を発行いたします)

- A. 「事例分析の基本について」 (河野龍太郎氏)
- B. 「安全な手術-WHO指針の実践」
- C. 「急変時の迅速対応-有害事象の早期発見と緊急対応」
- D. 「医療安全への患者参加-転倒転落防止と肺塞栓予防」
- E. 「人工呼吸器下ケアの安全管理 (VAPほか)」

・チラシ (PDF版) とご案内 (Word版) をホームページに掲載しています。ダウンロードしてご関係の方々にご案内ください。

👉 27日のシンポジウムをインターネットで全国中継します (9:00~11:45)

当日、ライブ中継を下記URLよりご覧になれます。会場への参加が難しい方はぜひインターネット中継でご参加ください。

◆ ユーストリーム <http://www.ustream.tv/channel/kyodokodo>

◆ ニコニコ動画 <http://ch.nicovideo.jp/channel/ch500>

* ニコニコ動画は中継をご覧になる前に簡単な登録が必要です。事前の登録をお勧めします。

* ニコニコ動画のサイトに“いのちをまもるパートナーズ”のチャンネルができました。現在、同サイトで「海外から日本の医療安全全国共同行動へのメッセージ」がご覧になれます。なお、同サイトでこれまでのフォーラムの講演記録ビデオを順次提供いたしますので、ぜひご覧ください。

【以下の映像を10月25日頃にアップする予定です】

(1) 特別講演「英国における改善の指標」 ブライアン・ジャーマン卿 (ロンドン大学名誉教授・前英国医師会長) ~ 全国フォーラム (第2回 2009/5/30) より

* 講演のスライドは <http://partners.kyodokodo.jp/info/report/2009/z090530forum.html> よりご覧ください。

(2) 特別講演「欧州におけるPatient Safety (患者安全) の取組み」 ギュンター・ヨーニツツ氏 (ベルリン医師自治機構会長/ドイツ連邦医師会質保証委員長) ~ 全国フォーラム (第3回 2009/11/23) より

WHO「安全な手術のためのガイドライン」のご案内

WHOより2009年10月に発表された「安全な手術が命を救う」の最終ガイドライン日本語版のご案内 “WHO「安全な手術のためのガイドライン」について” (新潟県立六日町病院 麻酔科 市川高夫氏) をホームページに掲載しましたので、ぜひご覧ください。

WHOは、世界中で患者に対する安全の方策が不適切なために多くの人が被害を受けているという事実に基づいて、医療の安全と監視システムの強化を世界の国々に急がせる決議を2002年に行いました。

最初の患者安全への挑戦は「医療のための手指衛生ガイドライン」で、2009年の初めにファイナルがWHOのホームページで紹介されました。このガイドラインにはフルバージョンと、サマリーバージョンがあります。WHOは、実際の手洗い・手指消毒の順守がいかに困難であるかを理解しており、医療施設・医療職員が手指衛生を順守する文化を築く手助けとなる多くのツールも紹介されています。

次の「世界的患者安全の挑戦」に選ばれたのが「手術安全」でした。…[続きを読む](#)

* [公開ページ/トップページ/メニュー](#) → [「世界は今」](#) → [「患者安全世界共同行動」](#)に掲載

医療安全の今とこれからの全貌を把握できる国際フォーラムに参加しませんか？

医療安全－海外では「患者安全」(Patient Safety)と呼ばれています－は今世界各国で、医療者と患者さんがともに安心して医療に専念できる環境づくりに向けた医療改革の流れを推し進めています。医療安全に取り組む人々にとってとくに重要とされ、医療の質と安全に関わる最新情報が一堂に会する3つの会議をご案内します。いずれもホームページから事前参加登録(割引あり)を募集中です。

➡アメリカの医療安全全国フォーラム

<http://www.npsf.org/npsfac/>

全米患者安全財団(NPSF)が主催する第13回“Patient Safety Congress”が2011年5月25日～27日にワシントンDCで開催されます。「より安全な医療」をめざす病院が全米から集まり、取り組みを交流し、新しい視点や活動を交換します。

➡第22回医療の質改善全米フォーラム

<http://www.ihl.org/IHI/Programs/ConferencesAndSeminars/22ndAnnualNationalForumQualityImprovementinHealthCare.htm>

1989年に発足した医療の質改善全米フォーラム(22nd Annual National Forum on Quality Improvement in Health Care)は今年で22回目を迎えます。日本発祥の“KAIZEN”の考え方を世界の医療に広めたIHI(Institute for Healthcare Improvement: 米国医療改善研究所)が主催する、質・安全に関わる医療者のメッカともいえる世界的に有名なフォーラムです。今年は12月5日～8日に、ディズニーワールドで知られるフロリダのオーランドで開催されます。世界のトップリーダーの講演のほか、レベルに応じてさまざまなテーマのセミナーやミニコースを選択して受講できます。

➡医療の質・安全国際フォーラム

<http://internationalforum.bmj.com/2011-forum>

英国のBMJと米国のIHIが共催する「医療の質・安全国際フォーラム」(International Forum on Quality & Safety in Healthcare)が、“Better Health, Safer Care, Lower Costs”をテーマにして2011年4月5日～11日にオランダのアムステルダムで開催されます。1996年に全米フォーラムの欧州版として始まった医療の質改善全欧フォーラムが、2000年以降医療安全が世界の医療の共通課題になったのを機に国際フォーラムへ発展したものです。

フォーラム・セミナー等のご案内

全国フォーラム

医療安全全国共同行動 全国フォーラム

日程: 11月26日(金)・27日(土)

会場: 幕張メッセ国際会議場 <http://www.m-messe.co.jp/access/index.html>

* 詳細は <http://forum2010.ppsqsh.net/>

地域フォーラム

静岡県「平成22年度医療安全管理シンポジウム」

テーマ: 行動目標8 患者・市民の医療参加

〈中部地区〉

日時: 11月8日(月) 18:00～20:00

会場: 静岡県産業経済会館 3階 大会議室

* 詳細は <http://kyodokodo.jp/doc/event/101108.pdf>

〈東部地区〉

日時: 11月16日(火) 18:00~20:00

会場: サンフロント 9階 ミーティングホール(沼津市)

* 詳細は <http://kyodokodo.jp/doc/event/101168.pdf>

主催 社団法人静岡県病院協会

8目標に関連するフォーラム、セミナー、シンポジウム、講習会

弾性ストッキング・コンダクター講習会(目標2に関連)

〈旭川地区〉

日時: 10月16日(土) 12:30~16:30

会場: 旭川市民文化会館 大会議室

〈東京地区〉

日時: 10月30日(土) 13:00~17:00

会場: 杏林大学 大学院講堂

〈大阪地区〉

日時: 2011年3月12日(土) 12:30~17:00

会場: 薬業年金会館 会議室301号、401、402号

主催 日本静脈学会弾性ストッキング養成委員会

* 各講習会の詳細は <http://www.js-phlebology.org/japanese/sscc/index.html>

NEW! 第6回医療安全大会—チームでとりくむエラー対策(すべての目標に関連)

会期: 11月6日(土) 9:30~15:30

会場: 青葉の森公園芸術文化ホール

主催: (社)千葉県看護協会

* 詳細は <http://www.cna.or.jp/> からご覧ください。

第5回医療の質・安全学会学術集会(すべての目標に関連)

会期: 11月27日(土)~11月28日(日)

会場: 幕張メッセ国際会議場 <http://www.m-messe.co.jp/access/index.html>

* 詳細は <http://www2.convention.co.jp/jsqsh05/>

ひとことアドバイス

危険薬の誤投与防止(目標1)

「インスリンは種類が多いね」



行動目標1支援チーム

小清水赤十字病院 循環器内科 菅野 隆彦

危険薬とされている薬剤は、多数ありますが、インスリンについての取り組みをご紹介します。

危険薬とされているインスリンですが、ヒトインスリンが日本で1980年代に発売されてから、糖尿病患者さんのために多種類のインスリン製剤が発売されてきました。現在、医薬品医療機器総合機構のHPの医薬品関連情報-添付文書情報(医療用医薬品)のサイトで、一般名をインスリンで検索すると3製薬メーカーから35品目(アナログ製剤を含む)と多数ヒットしました。そして、糖尿病患者

さんのために、いろんな投与パターンで、使用され、複数使用されることも稀ではありません（超速効型と持効型の併用など）。

一方、インスリンに絡むインシデント・アクシデントレポートが多く出ております。その要因としては、多数の製品があること、メーカー間でキット製品の扱いが異なること、同メーカーでも名称が類似していること、投与時間が複数種類・複数時刻となることなどからと考えられます。また、血糖測定の上で行われるスライディングスケールといった血糖の変動に合わせた投与量の変動がされることもあります。

そこで、当院では、糖尿病専門医を中心に、3メーカー同時説明をしてもらう研修を行いました。実際、同時に異なる3メーカーのインスリン・キット製品を手にする事で、キット製品の扱いの差、アナログ製剤では、最高血中濃度発現時刻に2峰性があるもの、製品による作用時間の差（持効型では、ほぼ24時間同じ血中濃度が維持されるが、メーカー間で若干の差があること）、などが比較検討できました。その結果、現場の看護師には、扱い上の注意点の絞り込みに役立ち、例えば、冷所保存（冷凍不可）の必要性、投与直前に十分振盪させてから注射する必要性、空打ちの必要性など、日常診療において、事故防止のみならず、有効な診療が行われるための操作性の確認の点からも有用な研修となりました。

このような研修は、すでに多くの病院で行われているとは思いますが、行動目標5 医療機器の安全な操作と管理でも使われており、同時に異なるメーカーの製品を比較検討することでその差異の把握ができると考えられます。

今回は、行動目標1の5の「危険薬の誤投与防止ベストプラクティス16」からインスリンに絡む対策を考えてみました。ほとんどの病院で「危険薬のリストアップ」が行われている次の段階として、個々の薬剤に対して、問題点を探っていくのはいかがでしょうか。

急変時の迅速対応（目標6）

聖マリアンナ医科大学病院における 院内急変対応の教育

聖マリアンナ医科大学 救急医学 兎玉 貴光 藤谷 茂樹

はじめに

院内急変対応は医療安全上の懸案事項の一つである。欧米諸国では体制整備が行われているが、わが国では検討が始まったばかりというのが現状である。海外の報告と同様に急変に遭遇する確率の高いわが国の救命救急センター看護師からのアンケート調査でも、迅速かつ的確な対応が要求される病態は、気道・呼吸・循環管理であることが判明している。しかし、救急医療・集中治療の正式なトレーニングを受けていない医療従事者にとっては重症化しつつある傷病者を迅速に覚知して、安全かつ確実に安定化する診療技術の習得機会が多くはない上に、多岐にわたる病態に対する標準化された診療に関する教育を受ける機会が無かったと言っても過言ではない。逆に言えば、教育体制を確固たるものにする事で院内急変対応の診療レベルは大幅に向上するのである。

Fundamental Critical Care Support (FCCS) の有用性

1994年に米国集中治療医学会が開発したFCCSは、集中治療のプログラムを修了していない医療従事者が重症患者を早期に認知して評価する能力を習得することを教育目標としている。FCCSの講義や実技は、困難気道、人工呼吸、血管確保などを含めた重症患者への初期対応と安定化、チーム診療のシミュレーション・トレーニングを包括していることから、われわれは院内急変対応の教育として最適であると考えている。

聖マリアンナ医科大学病院における取り組み

当院ではMedical Emergency Team (MET) のメンバーにはFCCSの受講を義務付けており、

これまでに救命救急センターでは医師13名、看護師12名、臨床工学技士2名がFCCSを修了している。さらに指導的立場にあるスタッフについては、日本医学シミュレーション学会で開催されているコースを受講することでレベルアップを図っている。今後は全病院スタッフに対してFCCSの概念を広めることで院内急変対応システムを整備して医療安全を推進していく予定である。

参考 URL

FCCS <http://www.fccs.asia/>

日本医学シミュレーション学会 (METトレーニングコース) <http://www.jsdam.com/>

*ひとことアドバイスは、[公開ページ/トップページ/メニュー](#) → [「相談室」](#) → 「ひとことアドバイス」からご覧ください。

フォーラム・セミナー等のご報告

第12回フォーラム「医療の改善活動」全国大会 in 名古屋が開催されました

チーム医療の向上に向けて106の改善事例発表

医療のTQM推進協議会は、フォーラム開催の8日前の平成22年9月22日に一般社団法人(上原鳴夫理事長)としての認証を受けた。第12回フォーラムは協議会が一般社団法人になって初めて開催するフォーラムで、平成22年10月1日(金)～2日(土)の2日間、名古屋市千種区の名古屋大学豊田記念講堂において、「改善活動 チーム医療の向上に向けて」をテーマに開催された。今回のフォーラム大



会長のトヨタ記念病院の稲垣春夫病院長は、「医療の質向上及び患者本位の医療の実現を目的とする多職種が協働する医療チームの力が強くなるのが、昨今の疲弊した医療の現場を活性化し、常に患者と共にある医療の再生に繋がることを期待したい」と述べ、「医療現場で医療安全確保や質の向上」に取り組むQCサークル活動による改善活動、全国的に盛り上がっている「医療安全全国共同行動の8つの行動目標」につながる改善事例、「病院として組織的に改善活動を展開してきた」5病院による事例報告等、106の改善事例が発表された。122の病院・施設から600人を超える医療関係者が集い、終始、熱気にあふれたフォーラムとなった。

上原理事長の挨拶、稲垣大会長講演で始まり、1日目には、トヨタ自動車(株)TQM推進部長大野秀樹氏、元町工場総組立部のスタッフ・課長が特別発表を行い、それぞれの立場から「トヨタにおけるTQM活動」、「QCサークル活動の改善事例」、「推進者のQCサークル活動支援」について語った。参加者からは「あの課長さんのスタッフに対する支援が、病院の看護師長とスタッフ看護師の間であれば、凄い病院になれると感じた」等、活動における推進者・支援者の重要性についての感想が述べられた。2日目の最後に、教育講演「トヨタの問題解決」がトヨタ自動車(株)トヨタインスティテュート部長吉村一孝氏により行われた。吉村氏は「トヨタには国内外で32万人の社員がいるが、社員教育の根幹は常に『問題解決』の具体的な行動、手順を身に付け、実践させることにある。それは、あるべき姿と現実の姿の間に存在するギャップを問題としてとらえ、解決する力を身に付け、解決していくこと」とわかりやすく語られた。参加者からは「トヨタの本質である問題解決とは、私たちが病院で実践している改善活動の考え方と同じですね。継続すれば必ず病院発展に繋がるという自信を持ちました」との声が聞かれる等、有意義で感銘深い講演であった。

その後表彰式が行われ、今回試行された「講評者＝審査員」による審査の結果、16セッションから

選ばれた16サークルに大会長より優秀賞が授与された。最後に第13回フォーラム大会長を務める岩国市医療センター医師会病院の内山哲夫病院長から挨拶があり、2日間の実り多いフォーラムは閉幕した。

(文責：一般社団法人医療のTQM推進協議会理事・事務局長 北島政憲)

*これまでのフォーラム・セミナー等の報告は、[公開ページ/トップページ/メニュー](#) → [「フォーラム・セミナー等の報告」](#)からご覧ください。

フォーラム・セミナー等のスケジュール

10月16日(土)	▶ 弾性ストッキング・コンダクター旭川講習会
10月30日(土)	▶ 弾性ストッキング・コンダクター東京講習会
11月6日(土)	▶ 第6回 医療安全大会 —チームでとりくむエラー対策
11月8日(月)	▶ 静岡「医療安全管理シンポジウム」(中部地区)
11月16日(火)	▶ 静岡「医療安全管理シンポジウム」(東部地区)
11月26日(金)・27日(土)	▶ 全国フォーラム
11月27日(土)・28日(日)	▶ 第5回医療の質・安全学会学術集会
2011年3月12日(土)	▶ 静岡「医療安全管理シンポジウム」(大阪地区)

★ウェブマガジンWhat's on, Kyodokodoは第1・第3金曜日に配信します
院内にて掲示・回覧・配布等、ご活用ください

医療安全全国共同行動 “いのちをまもるパートナーズ”
ウェブマガジン What's on, Kyodokodo 編集室
E-mail: secretariat@kyodokodo.jp URL: <http://kyodokodo.jp/>